

9:00~10:40

(会場:M2501教室) 外国人学習者のための「おもてなし」の日本語に関する研究

昨今、飲食業を含む小売業や宿泊業など、幅広い分野で外国人社員・スタッフの受け入れが進んでいる。深刻な人手不足に対応して、政府が外国人受け入れ政策を大転換することも明らかになった。本講演では、日本での就労、中でも観光関連産業での就職を希望する外国人の日本語学習者をことばの側面から支援する必要性を具体例と共に示す。

登壇予定者：中井延美（明海大）、林千賀（城西国際大）

(会場:M2502教室) 持続可能な開発目標 (SDGs) と観光：目標達成に向けた観光分野の取り組みと課題

持続可能な開発のための2030 アジェンダに盛り込まれた17 目標 (SDGs) 達成に向けた観光分野の取り組みと課題について、今年度発足した「SDGs と観光」研究分科会メンバーが中心に国内外の事例研究発表とディスカッションを行う。

登壇予定者：二神真美（名城大）、中島泰（公財 日本交通公社）
前嶋了二（九州産業大）、宮国薫子（琉球大）、ラナシンハ・ニルマラ（奈良県立大）
クマーラ・アーナンダ（名城大）、宮国泰夫（九州大・皇学館大）

10:50~12:30

(会場:M2501教室) 確かな観光人材育成へ向け、学校教育の役割を考える

大学生に向けた観光教育や高大接続を考慮した観光の専門教育に関する論議は盛んになりつつあるが、観光基礎教育を担う小中高の普通教育に関しては、依然として曖昧なままである。そこで、日本観光研究学会において関心を持つ学会会員が集い、観光教育の体系や専門教育を担う基礎教育のあり方、さらには初等中等教育における観光の学びの目標や方法論等に関してディスカッションを行う。

登壇予定者：寺本潔（玉川大）、宍戸学（日本大）、中村哲（玉川大）、深見聡（長崎大）
高嶋竜平（法政国際高校）、澤達大（京都文教大）

(会場:M2502教室) 「伝統料理とインバウンド振興」—東アジア美食・文化・観光国際フォーラム2018報告—

ワークショップでは、本年8 月に大阪で開催された「東アジア美食・文化・観光国際フォーラム2018（主催：日本フードツーリズム学会、社団法人韓国美食協会）」の研究発表や議論が交わされたシンポジウムの内容を紹介するとともに、「伝統料理とインバウンド振興」をテーマに日本フードツーリズム学会メンバーと参加者との意見交換を行う。

登壇予定者：中村忠司（大阪観光大）、尾家建生（大阪府立大）、高田剛司（㈱地域計画建築研究所）
村上喜郁（追手門学院大）、稲本恵子（大阪観光大）、王静（大阪観光大）

14:00~15:40

(会場:M2501教室) 観光経営教育～水平思考と垂直思考の融合による課題解決型学習の可能性～

「観光マーケティング」では、一般にSTPといったコトラー流のマーケティング技法が地域資源開発に用いられる。しかし、当該技法は市場が存在する前提で垂直方向に思考を進めるため、既存市場のないケースでは思考停止に陥る場合がある。そこで、新潟経営大学観光経営学部では、「垂直思考」を肯定する立場で「水平思考」を融合した観光資源の開発を課題解決型授業に取り入れる試みを実施した。本ワークショップでは、当該手法による活動成果の発表と議論から水平思考の有用性を考える。

登壇予定者：藪下保弘（新潟経営大）、小畑博正（同）、近藤政幸（同）、出口高靖（同）
落合純（同）、安達友理（同）、イワン・ツェリッシュェフ（同）、滝沢憲一（同）

(会場:M2502教室) 「自然災害に強い観光地」とは—「災害弾力性」の視点から

自然災害は地域の変容を余儀なくするが、速やかに復興・発展する地域と影響が長期化する地域とがある。本研究ワークショップでは、観光が自然災害からの「復興のエンジン」となりうるという認識にたつて、自然災害への「備え」や被災後の復興事例を多角的な視点から分析することを通して、自然災害への耐性（「災害弾力性」）からみた観光地に重要と考えられる指標の抽出を試みる。

登壇予定者：橋本俊哉（立教大）、真板昭夫（嵯峨美術大）、海津ゆりえ（文教大）
丹治朋子（川村学園女子大）、黒沢高秀（福島大）